

令和7年9月30日

いわき市病院事業管理者 新谷 史明 様

いわき市医療センター病院経営評価委員会
委員長 加藤 尚子

「いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）」に係る点検・評価
（令和6年度分）について（報告）

このことについて、標記計画に基づく令和6年度の取組状況等について点検・評価を行いましたので、次のとおり報告します。

本委員会で得られた助言・意見を院内で十分に検討し、今後の病院運営に活かしていただくことを期待します。

1 項目ごとの講評

(1) 令和6年度収支見通しと決算額の比較

- ・ 医業収益は過去最高額となったものの、給与費、材料費が計画値より大幅に増加するなど、いわゆる「増収減益」の結果となり、5年ぶりの赤字決算となった。このため、当センターにおいては、医業収益の更なる積み増しを図るなど、これまで以上の経営努力が必要である。

(2) 基本方針ごとの取組状況

① 基本方針Ⅰ

- ・ 「手術件数」や「外来化学療法件数」は目標値を上回り、また、ダビンチについても新たな施設基準を取得するなど、高度急性期病院としての役割は継続して果たしていると考えられる。
- ・ 地域との連携という点においては、紹介患者数、逆紹介患者数、地域医療機関への訪問件数はいずれも目標値を上回り、地域の基幹病院として役割は十分に果たしている。医療を取り巻く環境について、厳しさを増すことが容易に想定されるため、より一層地域医療機関との連携を深めていただきたい。

② 基本方針Ⅱ

- ・ 常勤医師が不在だった3診療科に常勤医師を招聘できたほか、研修医は6年連続フルマッチを達成するなど採用面で成果が見られる。
- ・ 医師の働き方改革についても、全ての医師が超過勤務時間の特例水準を下回る結果になったことは努力の結果だと考えるものの、タスクシフトによる改革の実現や人員配置の適正化による費用削減など課題解決に向けた取組みを推進する必要がある。

③ 基本方針Ⅲ

- ・ 感染対策については、有事の際に病床確保の役割を担う医療機関として、福島県から第一種協定指定医療機関に指定されたほか、地域カンファレンスの実施や感染制御チームが地域医療機関を訪問するなど、地域全体での取組みがなされており、基幹病院として役割を果たしている。
- ・ 院内においても、感染管理室が先頭に立って、周知活動を実施しており、危機管理体制が整備されていると評価する。

④ 基本方針Ⅳ

- ・ 新規入院患者数はコロナ禍前の水準まで回復し、また、DPC 収益も計画値を上回るなど、医業収益が過去最高額となったことは評価できる。
- ・ 一方で、給与費や材料費の増加が収益の増加を上回り、赤字決算となった
- ・ 給与費は、令和7年度も増額改定が見込まれ、材料費は、以前のように薬価差益で確実に利益が得られる体系ではなくなったことから、収益増加策として病床利用率の向上に向けた取組みなどを積極的かつタイムリーに行う必要がある。

⑤ 基本方針Ⅴ

- ・ 「病院経営評価委員会」において経営全般に係る点検・評価を実施するなど、外部評価を踏まえた取組みが着実に進められている。
- ・ 令和6年度の赤字を皮切りに、今後も厳しい経営状況が続くと懸念されるところであり、地域医療機関との連携強化、機能分化という点を踏まえて、他病院の事例も参考にしながら、経営形態に関する調査・研究を進めていただきたい。

2 全体の講評

令和6年度決算は、医業収益が過去最高額となったが、費用がそれ以上に増加し、当委員会発足（令和4年度）以来初の赤字決算となった。全国の病院で同様の傾向が伺える中で、当センターが苦しい経営を強いられている背景は理解できるものの、病床利用率の向上による医業収益の増加や人員配置の適正化による費用削減など自助努力できる点はあると考える。

当センターは、医療圏唯一の自治体病院であり、高度急性期及び政策医療を提供する責務があることから、病院経営の正念場とも言えるこの時期に、経営基盤の強化に向けた取組みを進めていただくことを期待する。